

百人一笑

繪入

上





百人一笑

全二冊

皇都書林

華箋堂梓

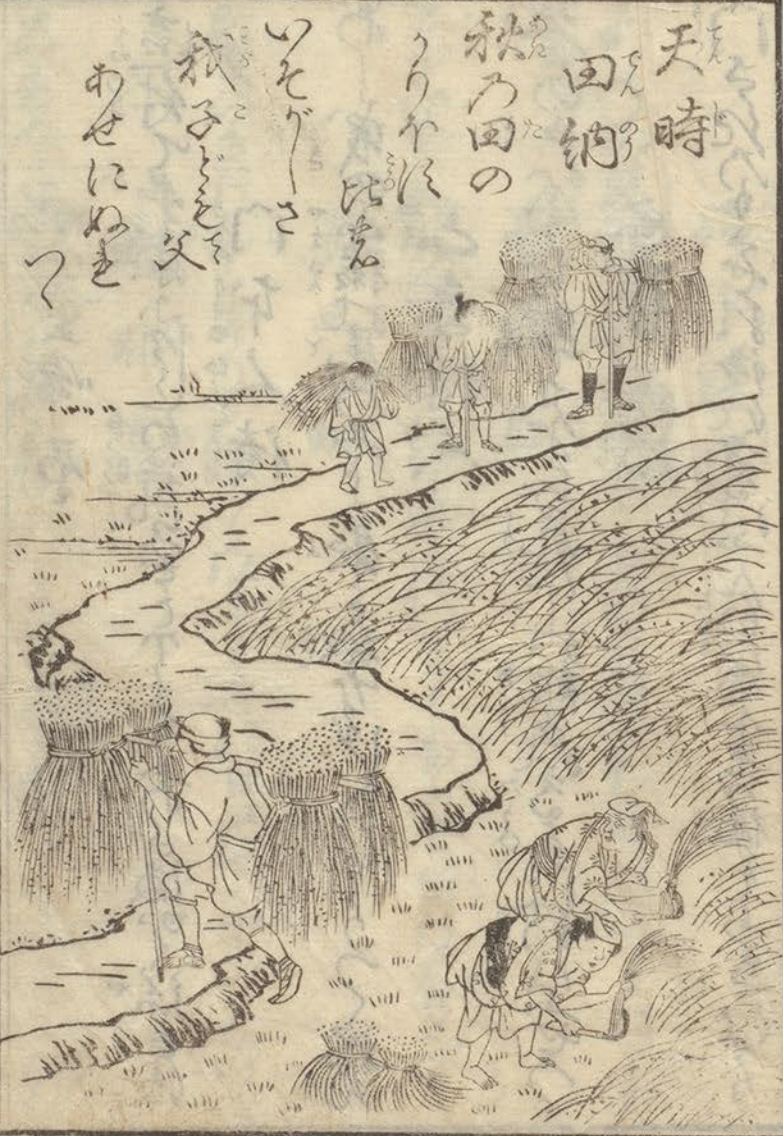
定家卿の百人一首小なぞ(天智天皇より)
順徳院まで相争みよみあそびの繪入りて
新編向おもしうき本なり

百人一笑序

むしりくわつとを猿志留の猿が
かたうち腰ぬはあとい日本一
きびおんおっ下さきれ倍と舞
さうき目の飛らん有見り入道
あはれおを流しあどこのきざん
お然しあもあうん今電柱を飛

けきとそしく見たりんんどの
 百あうあしくと海人ふたもそに
 わんあまど只め^たの^{あま}矢^{あま}ま^{あま}ん^{あま}の^{あま}ま^{あま}と
 死^{あま}の^{あま}

洛陽破履 大谷免鹿齋戲言

児童啼る

遠^{とほ}く^かて^つも^こ水^{みづ}ふ^じじ^じ白^{しろ}菊^{きく}子^こを^をり^りて^てあ^あの^の海^{うみ}の^の味^{あじ}

門中人侍

わ^わの^の家^{いえ}の^の猿^{さる}は^は尾^お乃^のみ^みと^と衆^{しゆ}と^と極^{ごく}力^{りき}が^がじ^じひ^ひら^らう^うつ^つて^て終^はん

山色狩人

谷^やの^の産^う瓜^{うり}う^うち^ち出^いて^てか^かき^き死^した^たれ^れ種^{くさね}を^をえ^える^る者^{もの}は^は約^{やく}は^はせ^せう

忠臣の徳持

門^{かど}さ^さた^たり^りし^しを^を終^はつ^つに^に暮^くれ^れん^ん白^{しろ}糸^{いと}金^{かね}六^む柄^へど^どあ^あき^きに^にけ^けり

姉弟股丸

あ^あの^の腹^{はら}襟^{えり}と^とけ^けん^んま^まぢ^ぢあ^あき^きぬ^ぬる^る身^みは^は色^{いろ}れ^れて^て月^{つき}を^を

貴賤没

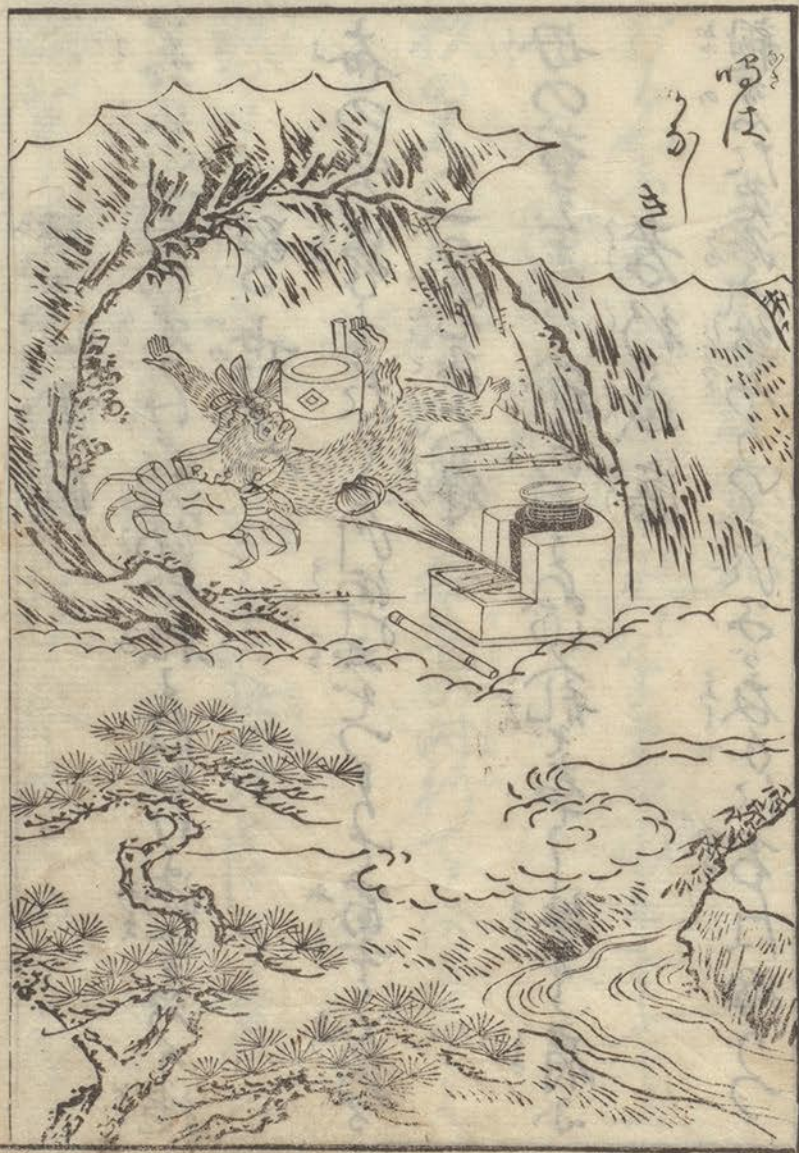
あ^あの^の都^{みやこ}は^は立^たつ^つ身^みの^の海^{うみ}は^は代^よと^とう^うあ^あを^を白^{しろ}は^は勇^{ゆう}かり

老之小町

髪^{かみ}の^のま^まは^は白^{しろ}ま^まり^りか^か皺^{しわ}づ^づは^は身^みを^を毒^{どく}に^に古^{ふる}波^{なみ}を^をゆ^ゆの^のま^まり

是非寝

あ^あま^まる^る子^こは^はか^かく^くを^をか^かぬ^ぬと^とだ^だま^まて^ては^は寝^ねを^を終^はら^らも^も大^{おほ}く^くか^か乳^ち



潜へば玉取

若公の世れ物来りけて入海や船ははむけ満ちつづ純
驚世人

在のふろ客もたしめし海女づつりて首をぬぐ
一の光子大母

母の若きまゝと稱あわぬゆ乱れ志と無か肩小
孝行感應

親孝たををれ筆りつと流子夜女におはゆりつ

業原鳴霹靂礼

かりもつる大雷も落し川火のまきかの水ぬまふとい

深腹立行怨

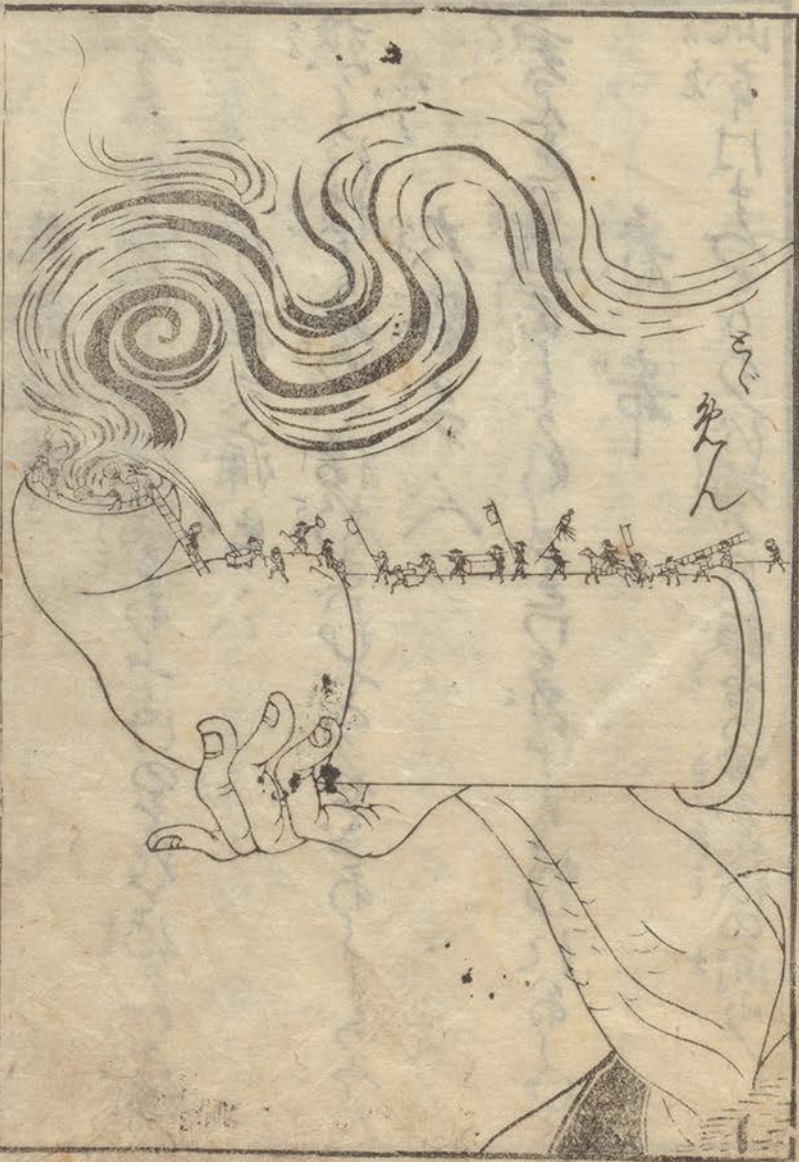
杖の本れ打の夜うの敷るや世の時行てふらやん

後世

我がくみどき足ありのるをたで世にたじてよ居ん

餅好甚重

僕ぬきと中端餅は餅まき皮むぐりてとらんぞあふ



執成法師

今あんといひ執の化境まわづけのそとほろけつ
今夜之痛出

推うに枝より落ちて揺らぎびびぶらせざりしとらん
大勢子人

寒きまは出富もろのまじりあひらけのにおひ
看 希

此本はまらざりあひ蟬くぬ銀杏の葉色紙の間ふく

天上病人

名なりお天をまか金巻の人ふちもてかきしり
天神 講

神松ふかりりし秋心あはれ今さびふ子本紙わびえ
状成後書助

紙巻に候ふ終るき人紙りりる集そりあ
見相客書鳴寒

ふふ体む日教也ゆつり書しは来は刈ぬありん



夜更せ
 行平
 立つけ
 舟の
 妖化
 倉庫
 さん

寂近子見常

かわそふ織りも織ん初孫にさせまゝとせりしら絹の機

壬生猿見ち

有たけぬ身知りとてけて纏けし赤顔とるゝたわはは

酒上是無理

酌酒者顔は鬼とて分まてにりて者ふ又女房とて

隆乃熱氣

山坂小風のけり横返は刃にたまうた流物かりたり

百人一笑上ノ十三

本宸也

いさじ約さあも操にりかぎとく賤ゆかや花かんちりり

吹系旋風

誰ととも知んおん旋風小傘浴ももて子共がかり

傍深敷

夢の夜をともむにらくあか梅敷のいつに突やだうん

坊嬰子花娘

子どもより砂塵吹くと花の吹くぬきとめぬまぞちるる



百人集上子巴



古今

捕らぬ方どばかりの法書一人命れお一人ことかきり
悟氣教

法初書これとの無始はかりの法書にてかどく人法信の
大儀金守

重むるお苦ふそかたり我ふは物やあつと人れをそぞ
力憂立見

子瓜をとりつが方はあに立ふたり人志をばを場のいあじ

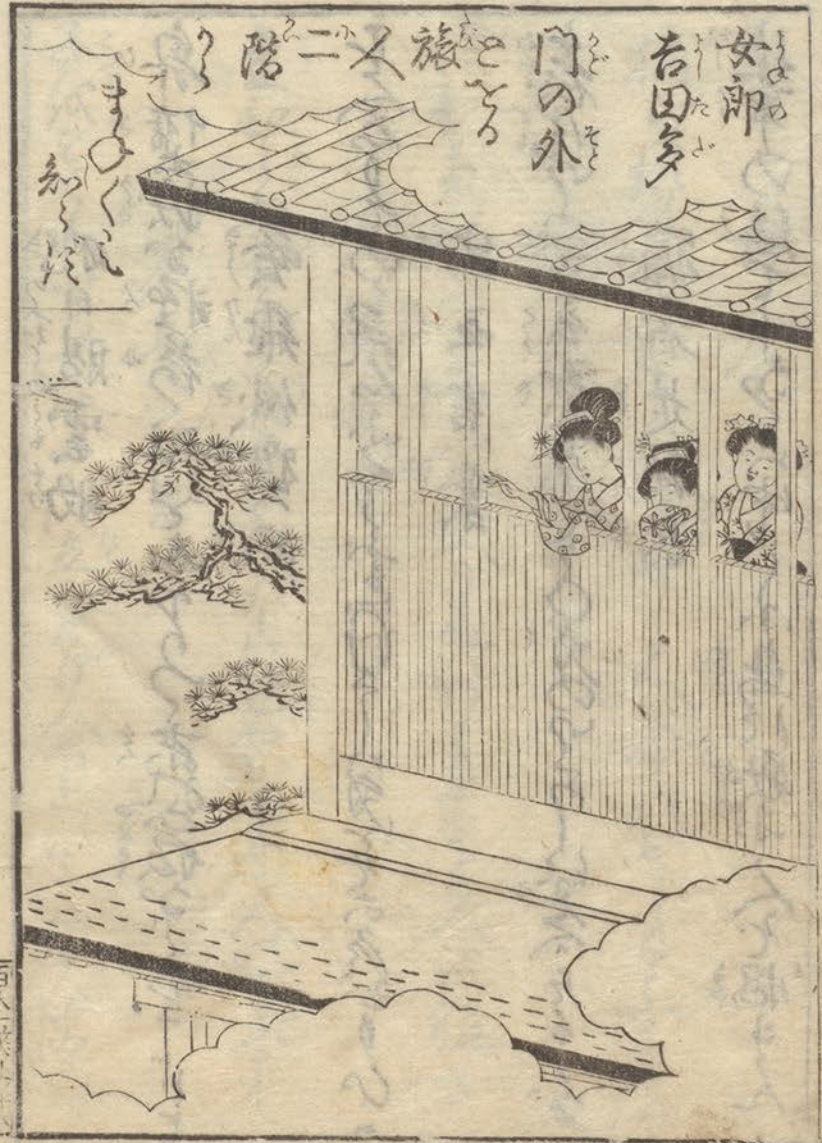
昨日腹雲助

身情と涙か種あふ行と志やうつ末れ坂おきとぞ
矣難依樊只

と志そのちれんふくふまびけついあにぞあはかりい
出言言葉

長吃のなき云系でてつりあつらひは冬なるんか
獵者は徒只

追軍の絶てしつぐし中くふ鳥に黙ふ人を悩まん



猿蓑法師

ふりへ真あふとれびきいんをえんて猿蓑法師

皆人投行

藤原のそと川舟の門乃戸れびて越のふりて

大中遠を退不達

みぎらまむひ乃た火れ藤を言をえんて相とと相

富士後足結飲

子ため小星ちれたの棹のえんたぐりかまゆりひらり



かみ
道

